




じっとしてられない女の子



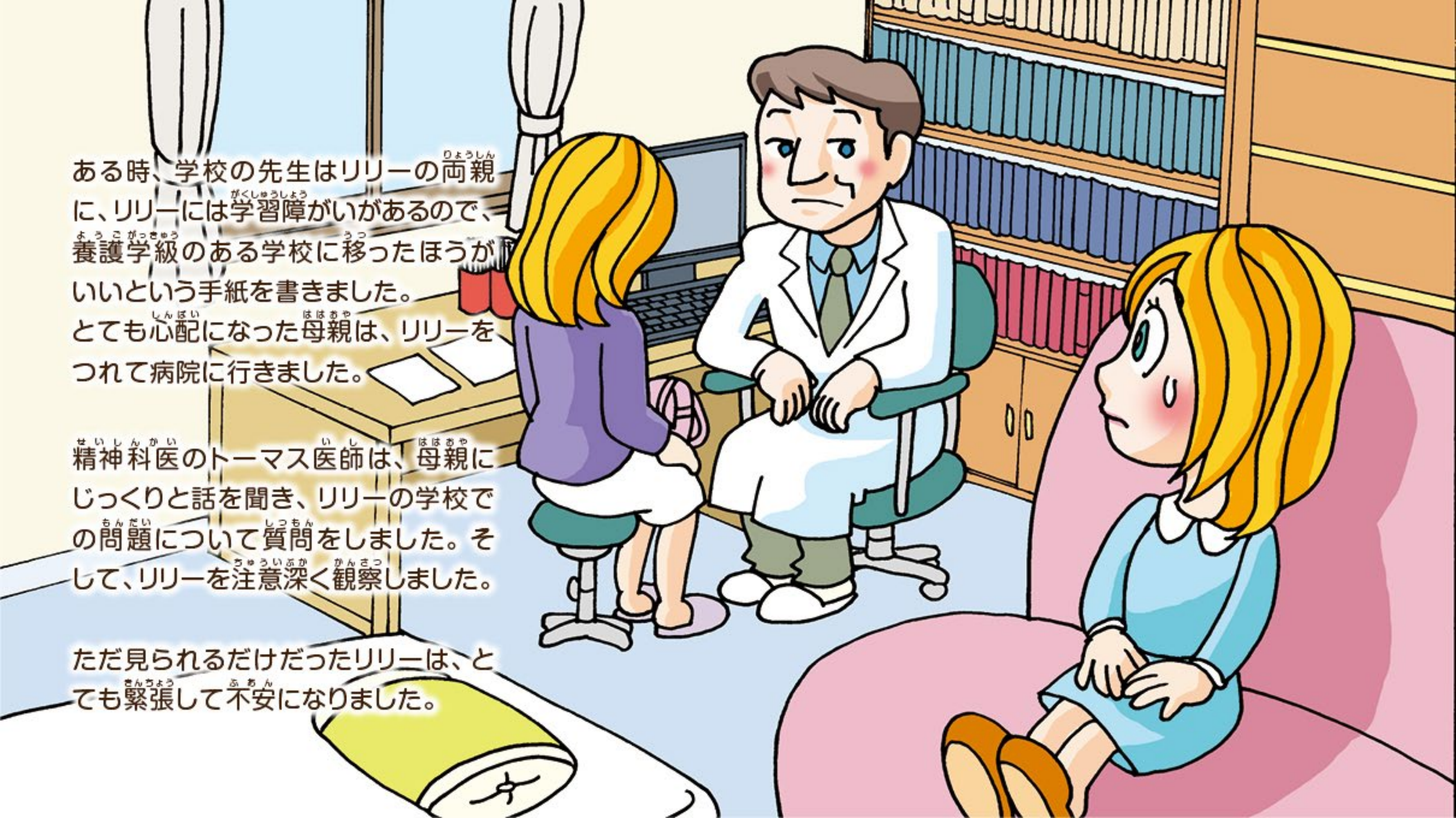


リリーは8才、小学2年生です。

リリーは学校で授業中も、さわいだり動き回ったり、かと思えば窓から外をじっとながめていたりして、落ち着きがなく、じっとしていることができません。

先生は、リリーの気を引くために授業を中断するのですが、リリーはすぐに、まわりの生徒にちょっかいを出してしまいます。





ある時、学校の先生はリリーの<sup>りょうしん</sup>両親に、リリーには<sup>がくしゅうしょう</sup>学習障がいがあるので、<sup>ようこがっしゅう</sup>養護学級のある学校に移ったほうが<sup>うっ</sup>いいという手紙を書きました。  
とても<sup>しんぱい</sup>心配になった<sup>ははあや</sup>母親は、リリーをつれて病院に行きました。

<sup>せいしんかい</sup>精神科医のトーマス医師は、<sup>ははあや</sup>母親にじっくりと話を聞き、リリーの学校での<sup>もんだい</sup>問題について<sup>しつもん</sup>質問をしました。そして、リリーを<sup>ちゅういふか</sup>注意深く<sup>かんさつ</sup>観察しました。

ただ見られるだけだったリリーは、とても<sup>きんちよう</sup>緊張して<sup>ふあん</sup>不安になりました。





母親との話が<sup>お</sup>終わると、  
トーマス医師は<sup>い</sup>リリーにこう言いました。

「リリー、お母さんと二人だけで話がしたいんだ。  
すまないけど、少しだけがまんして待<sup>まち</sup>っていてね。」



そして、二人はリリーを<sup>のこ</sup>残して<sup>へ</sup>部屋の外に出  
ました。部屋を出る時に、トーマス医師はラジ  
オのスイッチを入れました。





部屋を出るとすぐ、  
トーマス医師は母親に言いました。  
「ここでリリーを見ていて下さい。」  
二人は窓から、リリーのようすを見守りました。



するとリリーは、ラジオの音楽に合わせておどり始めました。リリーの動きには天性のものがあ<sup>はじ</sup>り、そのおどりは大人二人が見とれてしまうほどすばらしいものでした。





医師は母親にこう言いました。  
「リリーは病気ではありません。彼女は生まれながらのダンサーなんです。ダンス教室に通わせてあげてください。」

そしてリリーは、トーマス医師のすすめでダンス教室に通いはじめました。





ダンス教室でリリーはこう思いました。  
「言葉で言い表せないほど楽しい!」「ここにいるのは私みたいな子ばかり。みんなじっと座っ  
てられないの!」





リリーは、それからダンス教室に通うようになり、  
家でも毎日ダンスの練習れんしゅうをしました。

そしてついに、ロンドンのロイヤルバレエ学校  
を卒業そつぎょうし、英国ロイヤル・バレエ団えいこく だん だんいんの団員となり、  
ソリストとして世界中を公演えんして回るようになりました。





やがてリリーは、自分の劇団<sup>げきだん</sup>を立ち上げ、世界的<sup>せかいてき</sup>に  
有名なミュージカル<sup>ゆうめい</sup>の振り付け<sup>ふ</sup>をしました。

彼女は今、世界最高<sup>せかいさいこう</sup>の振り付け師<sup>ふ</sup>の一人として、  
多く<sup>ひとひと</sup>の人々に感動<sup>かんどう</sup>をあたえています。



(あとがき)

この物語は、ジリアン・リン (Gillian Lynne) のお話を参考に作成しました。ジリアン・リンは、子どもの頃に学校の教師から「学習障がいがあるのでは」と心配されながらも、ダンスの才能を開花させ、バレリーナを引退後は、自らミュージカルの劇団を立ち上げ、プロデューサーとしてロンドンやニューヨークでいくつもの公演を成功させました。そして、ジリアンは大成功をおさめた『キャッツ』や『オペラ座の怪人』を含め、輝かしい数々のミュージカルの振り付けを手がけています。

著作権の関係上、ジリアン・リンの名前を使うことはさけ、主人公や登場人物の名前をオリジナルにしています。